

昭和49年用(昭和48年9月末現在)

東京工業大学 窯業同窓会会員名簿

付 会誌第12号

窯業同窓会

〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1
東京工業大学
近藤研究室内
電話 03-726-1111
振替口座 東京 196855 番

役員名簿 (昭和48年度)

会 長 山内 俊吉
副会長 倉田 元治・江副 勇馬・大石 信男
長崎 勸・森谷 太郎
相談役 藤岡 幸二・伊奈 長三郎・鮎川 武雄
石塚 正信
常任幹事 近藤 連一・浜野 健也・小坂 丈予
名取 賢荘・後藤 誠史
幹 事 加藤 政良・梅田 夏雄・大庭 宏
遠藤 幸雄・亀井 四郎・長谷川 安利
木村 脩七・井関 孝善・山根 正之

クラス連絡員名簿

大正		12	尾野 勇雄	28	柳 正光
4	米谷 忠次郎	13	田賀井 秀夫	28	堀江 勲
5	各務 鉦三	14	福井 哲	29	原田 賢
6	赤塚 幹也	15	素木 洋一	30	長谷川 安利
7	阿部 庄司	16. 3	赤沢 次男	31	中島 節治
8	久保 季吉	16. 12	加藤 政良	32	西 晴哉
9	飯塚 誠厚	16	浅野 修二	33	山岸 茂
10	山田 精吾	17	金森 隆	34	武 孝夫
11	石塚 正信	17	荻原 淳治	35	猪股 吉三
12	若林 滋	18	奥田 進	36	高宮 陽一
13	山内 俊吉	18	居上 英雄	37	大川 恒雄
14	倉田 元治	19	近藤 連一	38	井関 孝善
15	水地 満穂	19	後藤 九五	39	後藤 誠史
昭和		20	新居 善三郎	40	前田 敏勝
2	小島 豊之進	20	堤 矩雄	41	松沢 素一郎
3	松崎 錠三	21	鈴木 弘茂	42	片淵 信一郎
4	大石 信男	21	小山 保二郎	43	秋山 豊
5	野口 長治	22	遠藤 幸雄	44	中川 敏夫
6	真保 義郎	23	浜野 健也	45	岡部 淑夫
7	森谷 太郎	23	名取 賢莊	46	田村 信一
8	戸田 文雄	24	佐野川 建	47	犬飼 崇雄
9	白石 清梧	25	菊地 央	48	加藤 拓
10	桧山 真平	26	亀井 四郎		
11	稲村 泰	27	宇田川 重和		

ご挨拶

会長 山内 俊吉

母校も一応学園騒動が落ちつき、施設・設備も充実し新食堂も出来ましたので、昨年度の本会総会は、母校の見学旁々満開の桜花に包まれた新食堂で開催いたしました。遠くからも多くの参加者があり盛会であり、和気にみちた大変愉快的な会合でした。

今まで総会は同窓会員の参加が一人でも多くなるだろうということで、よく窯業協会の総会の時を利用しておりましたので、最近東京での開催がほとんどであり、会の中からも時々は地方での声もありました。

そこで本年度の総会は東海支部のご快諾を得て、かねて希望していた名古屋の地で開催することが出来ました。支部の極めて熱心な企画により、これまた多くの参加者を得て大変なごやかな実に楽しい総会でありました。

同窓の方々の中にはお仕事や距離などの関係でお互に会う機会が少ない方も多いため、こうして、せめて年1回の総会に出席し、一人でも多くの人々と顔合せすることを楽しんでいる方が多いようであります。

なお会員相互の連絡のために一つは関東、東海、近畿、九州と大別してそれらの地区の会員の中から若干名ずつ本部の役員をお願いしております。もう一つは名簿・会誌の発行その他で各クラスの人々の消息などについて常任幹事との連絡を密にするためにクラス毎にクラス連絡委員をお願いしております。これらは何れも全国的な連絡をとりたいためであります。何卒よろしく願いいたします。

また毎年の総会で卒業50周年の方々に会員一同の心のこもった記念品を贈りお祝いを申しあげています。昨年度も今年度も同窓の加藤鈔氏のご好意による心のこもった力作を贈呈いたしました。

現在は国の内外共、諸事極めて流動の時代であります。同窓の皆様がご健康を第一にされまして、常に柔軟な頭で今後の日本の健全な進み方について、指導的役割を果されますよう願ひいたしましてご挨拶といたします。

昭和48年9月7日

近況断片

科学技術庁無機材質研究所
田賀井秀夫

昭和19年山内先生の研究室にご厄介になってから、夢のように27年が過ぎ、昭和47年3月に停年を迎えたわけですが、46年9月から科学技術庁無機材質研究所へ出向しまして、引続いて無機材研に勤務しています。ここも47年3月から筑波研究学園都市に移転第1号機関として、後続の40に余る国立研究所群に魁けて永住することになったのです。頭初は広大な野原の中にポツンと近代的な研究所が建って、一寸淋しい様な工合でしたが、住宅のアパート群やショッピングセンターこれに加えて自家用自動車の駐車場、補装道路、歩道などが出来て、大分住みよくなっています。ここ筑波に住むと空気はよいし、夏の早朝などはカッコーやほととぎすが鳴き、コジュケーや雉のなき声も聞えて、何か別天地に来たような気がします。研究所も研究者が100名になるように大きくなったので、将来がいろいろ期待されます。

はじめは、この様な田舎に来て研究をする者は少いのではないかと心配していましたが、近頃は希望者が大変ふえています。この研究学園都市の面積は、東京の環状電車線の中に、すっぽり入る位の広さで、無機材研はちょうど日比谷辺、文部省の高エネルギー研究所が赤羽辺、筑波大学は神田、本郷辺を占める位置になっています。常磐高速路は、この地区ではクイ打ちが終り、昭和52年にできるそうですが、インターチェンジが無機材研の西南5km位のところに出来て、東京都高速路の向島綾瀬線と連絡されると30分の距離になります。まだ訪れる方も不便で遠いように感ぜられているようですが、上野から1時間、土浦下車タクシー15分のところですので、どうぞご光来下さい。

お蔭様で元気に業務に従事しています。ここにも窯業同窓会の者が数名おり、何かとお世話になっていて、いつも心強く思っていますが、それにつけても外部から、窯業同窓会の各位の絶大なご支援を願わねばならぬことが多いので、何卒よろしく願ひ上げます。

一筆近況お知らせ申し上げますが、窯業同窓会がいよいよご繁栄になりますよう、また、会員各位のご健勝をお折り申しあげます。

東京工業大学窯業科に在任中の思い出

山田久夫

小生が東京工業大学に赴任しましたのは昭和 17 年 4 月ですから、今から約 31 年も前になります。当時は太平洋戦争の真っただなかで、小生の担当した地学研究室も戦時研究を委嘱され、褐鉄鉱製練の基礎研究やロケット兵器の部分品である特殊磁器の研究等を割り当てられて、岩井津一君（昭和 18 年より研究室に参加）と共に、毎日、顕微鏡をのぞいたり X 線をいじくったりし、当時は小生も 30 才を過ぎたばかりの青年でしたので、しばしば研究室に徹夜したりして頑張ったものです。

当時の窯業科は平野耕輔先生が主任で、田端・山内両教授、河嶋・鈴木両助教授等の錚々たる大家のなかに入って、小さくなって仕事をしていたわけです。森谷・清浦・田賀井・川久保・素木等の諸氏は小生赴任直後に窯業科または研究所に参加された方々で、これら先輩・同僚諸氏には長い間手厚いご指導を受け、また、地学教室では岩井君を始めとして多くの優秀な研究員にかこまれて研究生活を送ることが出来たのは誠に幸福であって、これらの方々に厚くお礼申し上げますと共に、小生の天性不敏のため、窯業科や業界に何等貢献することが出来なかったことを深くお詫び申し上げます。

長い在任中にはいろいろの思い出がありますが、ことに印象の深かったことを列挙すれば、昭和 19 年に資源調査団に参加して内蒙古地区を旅行したこと、昭和 36 年に米国ペンシルバニア州州立大学の Dr. Brindley が客員教授として半年間来学され、研究室をあげてそのお世話をしたこと、昭和 43 年に欧米に出張して学術研究や見学を行なう機会を得たこと、昭和 44～45 年の全国的大学紛争に本学もまきこまれて多くの教官等

の驥尾に付してその解決に骨身を削ったこと、また、退官直前に最終講義を行なった際、多くの方々が遠地より来会されて旧交をあたためることが出来たことなど、今となってはその大部分が小生の貴重な人生経験となっていていつまでも記憶に残ることと思われまふ。

本年 4 月に工大を定年退官になりましてから、直ちに東海大学に教職課程の専任教授として赴任し、引き続き学生等の教育に従事しております。こちらではまだ新米ですので、今年度は学生等に講義や実習指導を行なう以外にはたいした用務もなく、比較的ひまですが、明年くらいからぼつぼつ学内のいろいろな役員などをやらされそうです。既に学内に研究分野における知己を得ております。

60 才を越しても気分だけはまだ若く、近年のうちに専門の岩石学や趣味の考古学の研究・見学のために海外に出かけたいと思っています。アフリカ東部の火山群（キリマンジャロ・ルエンゾリ等）・スカンジナビア半島の変成岩・メソポタミアの古代遺跡等が計画目標です。

現在、浜野健也君のご厚意で、毎週火曜日に工材研に出かけて顕微鏡観測等を行なっておりますので、大学におられる方にはその折お目にかかる機会があろうかと思っております。

皆様のご健康とご活躍とを心からお折りして本稿を終ります。

学位授与

前号にひき続き、それ以後の論文提出による学位授与は次の通りである。

日付	氏名	号	論文題目
47. 2. 25	猪股吉三	331	高純度 SiC 単結晶の合成に関する研究
47. 4. 19	大野勝美	341	工業材料の蛍光X線分析方法の数値解析に関する研究
47. 7. 12	内田健治	349	高温二相抽出分離法による炭化タングステンおよび タングステン製造の研究
47. 7. 27	三島清敬	356	アルミナセメントの水和特性に関する研究
48. 2. 14	李 応 相	378	カオリン-石英-長石系磁器素地の焼結過程に関する研究
48. 3. 20	黒沼春雄	385	乾式排煙脱硫法に関する基礎研究
48. 3. 20	栃原重三	386	高分解能デジタル磁気記録用テープ製造に関する研究
48. 3. 20	浦部和順	387	Hydrothermal Synthesis of Kaolin Minerals.

叙勲授章その他

この2年間に叙勲、授章あるいは受章された方々のお名前を記し、衷心よりお祝いを申し上げます。

角田 顯保氏 (昭3) 藍綬褒章	山田 久夫氏 (職) // //
松崎 錠三氏 (昭3) 紫綬褒章	鈴木 弘茂氏 (昭21) // //
石塚 正信氏 (大11) 愛知県産業功労者	佐藤 正雄氏 (職) // //
各務 敏三氏 (大5) 神奈川県文化功労者	斎藤 進六氏 (職) 48年5月31日
佐多 敏之氏 (職) 46年度 窯業協会 学術賞	日本高压技術協会論文賞
松崎 錠三氏 (昭3) // 窯業協会 技術賞	梅田 夏雄氏 (昭20) // //
若林 明氏 (昭10) // 窯業協会 技術賞	山田 精吾氏 (大10) 47年度窯業協会功労賞
奥田 進氏 (昭18) 大倉記念財団陶磁器の技術 開発貢献者	下平高次郎氏 (職) // 窯業協会学術賞
素木 洋一氏 (昭15) //	浜野 健也氏 (昭23) // //
浜野 健也氏 (昭23) //	尾関 稲氏 (昭5) // 技術賞
原 幾久氏 (大6) 46年 月 日	大庭 宏氏 (昭20) // //
勲四等瑞宝章	林 武志氏 (職) // //
桧山 真平氏 (昭10) 46年 月 日	大門 正機氏 (昭46博) // 進歩賞
勲三等旭日中綬章	近藤 連一氏 (昭19) 48年5月15日
若林 滋氏 (大12) 47年4月29日	セメント協会論文賞
勲四等旭日章	大門 正機氏 (昭41) //
川久保正一郎氏 (職) 47年10月1日	藤井 稔氏 (昭16) 48年5月
東京都科学技術関係功労者	耐火物技術協会賞
	大庭 宏氏 (昭20) 耐火物技術協会賞

訃 報

この2年間にお亡くなりになりました同窓の方々のお名前を記しまして、謹んで哀悼の意を表します。

吉木 文平	旧職員
原 幾久	大正 6 年卒
石川久羅四郎	明治 42 年卒
吉沢篤二郎	明治 45 年卒

山沢 逸雄	大正 12 年卒
吉田 博	旧職員
麓 芳純	昭和 43 年卒, 昭和 46 年修卒
松本 三則	昭和 20 年卒
小野沢啓介	昭和 23 年卒
野上 敏一	昭和 9 年卒
富山国之助	旧職員

昭和 47 年度総会と懇親会

このところ同窓会の総会は、日時も会場も窯業協会の年會に合わせておこなうのが慣例のようになっていたが、一つ今年は慣例をやぶって、ということで日時は窯業協会の年會にあわせて5月9日、会場は母校の新装なった新食2階で開催された。このところ大学は年毎に建物がふえ、数年ですっかり見違えるほどの変化をしているので、日頃、学校においでになる機会の余りない方々に母校の発展ぶりを見て頂けたら、という希望で会場を決めたが、何と云っても都心とくらべて交通不便な大岡山なので、どの位の方々がお出席下さるかが幹事一同の心配だった。そのため総会前においで下さった方々に車を用意して学内をご案内するなどの準備をしていたところ思いがけず120名ほどの、例年にない多数の方々のご出席を頂き、多くの方々にご好評を頂いたことは大変有難いことだった。総会は近藤常任幹事の司会で進められた。森谷副会長の開会の挨拶の後、山内会長を議長に選出し、物故会員に対する黙祷、つづいて山内会長の挨拶があり、さらに浜野常任幹事から会務、小坂常任幹事から会計の報告があ

り承認。次期役員については会長に一任され、会長より別記のような副会長、幹事、常任幹事の指名があり、承認された。また相談役に新しく伊奈長三郎氏、石塚正信氏をお願いする件も全会一致で承認された。またこの総会では、新しくクラス連絡員の制度をつくることが認められ、別記の連絡員が承認された。

つづいて恒例の卒業50年を迎えられた大正11年卒の方々に対する記念品の贈呈が行なわれた。会長から卒業50年の方々の近況のご説明があった後、ご出席の川村新太郎、木島昇、高橋久男、野村三治、松本昌蔵、渡辺文平の各氏に会員である加藤鈔氏の作品「鉄釉双耳花器」を贈呈され木島氏が50年の方々を代表されてお礼の挨拶をされた。つづいて学科主任の山田久夫教授から学内の近況の報告があった。議事が多く、時間が伸びたため、ここで総会を終えることとし、江副副会長から閉会の挨拶があった。

つづいて会場を隣室にうつし、司会を名取常任幹事に交代して懇親会に入った。倉田副会長の挨拶



挨拶があった後、田賀井名誉教授から学外の概況ご説明があった。引つづき先輩の方々や、新卒の新しい会員の自己紹介などが行なわれたが、このあ

たりから会場満員となり、諸所方々で賑やかな雑談がはじまり、閉会の時間を延長し、8時過ぎ盛會裡に閉会した。

昭和48年度総会及び懇親会

昭和48年度の総会と懇親会が5月8日名古屋都ホテルで開催された。

若葉眼に沁む五月晴れを期待したが、生憎くの小雨で同窓各位の出足が心配された。しかし同窓の熱意は高く、定刻6時前には続々と来会され、受付者がうれしい悲鳴をあげるほどであった。西は宮崎県より東は福島県まで参加され総員80名の盛会となった。

午後6時やや過ぎに総会に入り、近藤連一常任幹事の開会の辞、山内俊吉会長の挨拶、前年度の会務と会計報告の承認、前年度役員全員留任の決議が行われた。引続いて卒業50年を迎えられた大正12年卒の11名の諸氏に日展陶芸作家加藤鈔氏(昭和23年卒)の壺が贈られ、代表として外川進氏が目録を受けられ満場の拍手をあげられた。

懇親会に入り都ホテル自慢の中華バイキングにビールを傾け1時間の経過を忘れる盛況であつ

た。

名工試の新居氏(昭和20年卒)の司会により、東海支部長埜崎堅造氏(昭和18年卒)の挨拶及び倉田副会長(急用のため欠席)よりビールのご寄附の披露、更に石塚硝子(株)、伊奈製陶(株)よりお土産のご寄附の披露があった。

全員揃っての乾杯の後、自由懇談に花を咲かせ、鈴木弘茂教授の学内近況報告、加藤鈔氏の50周年念記品製作についての感想などのテーブルスピーチをはさみ、新入会員松本修君(伊奈製陶入社)の紹介及び大正5年卒の大先輩上山節氏と松本修君、約60年の隔たりを経た同窓の握手により、同窓の歴史の永きことを眼の当りに見る感があった。

定刻8時もせまり、名残りは尽きないが窯業同窓会の萬歳三唱及び江副勇馬副会長の閉会の辞で盛會裡に会を閉じた。

(東海支部涌井歳一記)

昭和46年度収支決算報告書

(S. 47. 4. 30 現在)

収入の部

収入総額	1,100,354円
前年度繰越金	212,717
事業寄付金	206,500
昭和45年懇親会費	140,000
名簿広告料	540,000
銀行利子	1,137

支出の部

支出総額	823,260円
懇親会費	213,960
弔電	90
名簿出版費	565,215
為替料	4,795
懇親会通知葉書および印刷代	39,200
次年度繰越金(差引残高)	277,094円

昭和47年5月1日

昭和47年度収支決算報告書

(S. 48. 5. 8 現在)

収入の部

前年度よりの繰越金	277,094
事業資金	95,500
懇親会費	153,000
銀行利子	2,930
	<u>528,024</u>

支出の部

懇親会費(含通信費)	210,585
記念品代(含送料)	26,000
文具代	7,200
弔電	290
会合費	11,930
郵便振替代金	105
郵便振替引出料	580
昭和47年度懇親会用葉書・印刷代	<u>39,700</u>

296,390
差引残高 231,634

昭和46年度事業資金寄付者芳名

10,000円 (20くち)	山内俊吉	江副勇馬	
3,000円 (6くち)	森谷太郎	鮎川武雄	
2,000円 (4くち)	森本孝治	藤岡幸二	森谷太郎
宮内準五郎	加藤博之	中村厚	真保義郎
吉田一栄	木船要太郎	江藤哲夫	伊奈辰次郎
畔村一万	毛利良雄	鈴木保雄	金子尚
1,500円 (3くち)	茂木今朝吉		
1,000円 (2くち)	藤岡了	大場立夫	水野茂樹
野口長次	加藤正之	梅田夏雄	安竹了和
飯塚誠厚	華房嘉勝	境野照雄	加藤鈔
田中博一	近藤連一	山下透	浜野健也
鈴木保雄	岩崎嘉助	倉田貢	中沢三知彦
塩川皓	速水多根雄	田上嘉秋	小泉善之助
小坂丈予	田端精一	内藤繁誠	宗宮重行
横瀬信次	高橋紘一郎	丹羽誠	安芸静一
伊藤正三	福崎福七	三浦正二	伊藤登
渡辺二郎	藤井洋治	鈴木敏弘	渡辺宗男
中尾竹次郎	新居善三郎	稲村泰胤	柘植信雄
長崎準一	山形安一行	大木通胤	木村一男
五十嵐才吉	渡辺一行	原田賢夫	開田高生
寺門常次	藤井豊男	影山静夫	前沢秀憲
中川邦好	清水広	中川順吉	市原堪治
福岡康雄	中村周清	斎藤久明	松岡豊造
田辺昌之	国吉五六	猪股吉三	渋谷益男
森下一郎	岩田俊孝	加藤左織	古志野稔
村上三五朗	細井久孝	菊池光治	佐藤恒夫
田中満生	山口静逸	水地満穂	佐藤功
坂東文市	日浦致	浜野光輝	山下寛
大石信男	小尻由三	高浜恒一郎	後藤九五
渡辺弘道	倉本透	美崎敏之	金丸豊之助
池田卯一	山本登	遠藤敏夫	木戸雄二
堀部芳	鵜飼喬介	足立保彦	塚本行
吉田格	桑原直輝	岩切一良	田代楠熊
中村敦	草間保	堅田尚	内藤義一
亀啓三郎	大井修一郎	平井正弘	米谷忠次郎
黒田永二	八木俊雄	中山晴彦	藤井透
今問朋春	御代健次郎	伊藤豊成	桑川長次郎

稲生謙次	山本孝彰	山崎俊雄	加藤欽一郎
大内三男	斎藤永吉	巽昭夫	山下透
末野悌六	加藤健造	小沢章晃	大村心也
浅見進一	川本正一郎	越前谷民雄	井関孝善
羽田晃治	松永一郎	五十嵐幹治	
500円(1くち)	高橋久男	菊地央	草間保進
吉田格	桧山真平	中村八助	奥田進
河井信雄			

総合計 206,500円

昭和47年度事業資金寄付者芳名

10,000円	山内俊吉	倉田元治		
3,000円	森谷太郎	西田一雄	石井峰郎	
2,000円	木船要太郎	松本昌蔵	高橋久男	川村新太郎
	木島昇	角田穎保	加藤政良	名取賢荘
1,000円	高宮陽一	飯塚誠厚	松崎錠三	水野茂樹
	大木通胤	草間保	尾野勇雄	藤井正雄
	田賀井秀夫	吉田格	福井哲	江藤哲夫
	田上嘉秋	小泉善之助	中沢三知彦	三沢賢一
	河井信雄	境野照雄	奥田進	近藤連一
	小熊守	梅田夏雄	塩川皓	桑原直輝
	鈴木弘茂	遠藤幸雄	長岡為行	森本邦
	牧村信之	森元邦	厚見昌弘	浜野健也
	杉浦孝三	子安一義	山下透	赤尾洋二
	石毛健二郎	菊池央	亀井四郎	長谷川安利
	持田滋	高橋紘一郎	田辺昌之	末野悌六
	小片仁	佐多敏之	小坂丈予	木村脩七
	後藤誠史			
500円	田中広吉	遠藤貞	窪田三郎	鯉江七郎

クラス会報告

T12 連絡員 若林 滋

昨年の総会で私が大12年のクラス連絡員であると指名されましたが、一度も昨年はその責を果

しませんでしたので、今年の年賀状の時には特に今年は卒業満50年で感如何と別記して彼等の動

静とその50年に何か郷愁のようなものでもあるかを期待して、同窓の年賀状を待ちました。やはり3名からは卒業後50年で、在来全科合同の同窓会は30年、35年、40年……と何度も集まったが窯業だけでは一度も集まったことがない、是非今年はその集りを持ちたいので幹事をやれとの催促がありました。その心づもりの時、私共の協会の総会が2月の理事会で5月上旬名古屋市中で開催が決定しますと、本学の同窓会もその時合流したいとの申込。そこでわがクラス会も名古屋でと皆に問合せましたところ、半数が場所と期日のため不可能と分り、それではと意見をまとめまして4月に東京で集りました。

御存じのように大12期生は珍しく多数が活動中で9名が銀座に参集しました。病欠2名、不明1名。

定刻に座敷に座りましたがとても開会などと言ったものではなく「おまえ〇〇か」「卒業後はじめてだなあ」ワイワイ、ガアガアで始まったクラス会でした。同じ窯業とは申せ卒業と同時に各分野に散った皆の内、特殊関係者は近い交友がありましたでしょうが「始めまして」等のさわぎから始まり、顔を合せました途端に昔昔蔵前時代のクラス会の時と全く同じになりました。頭も黒く顔も昔のまま姿もあのままといった「ばけ者」1名

と、皆から「おまえほんとに〇〇か」と何辺も冷かされた1名の外は皆50年の年輪が「白毛」に「しわ」に永い歳月を背負ってきました。

東京工大の経歴からしても旧浅草蔵前から大岡山へ移った区切りの最後の卒業生の私共にとって思い出の深い仲間です。その集いも、酒が入り食事が進めばそれはそれ50年前の懐古録から始まり、うなぎ突きの舟が学校の艇庫横の隅田川に付いていたこと、蔵前渡しに窯業科建物の下を通い、それにとび乗って対岸にエスケープしたこと、記念祭の大売出しで応化製の香水を一升瓶で買って処分に困った話、紡織製のセルを買って始めての大人の着物を着た話、わが科の楽焼場でワンサ集る女学生の代筆に「Don't forgot me」だけ書いて焼いて売った話…

とにかく昔「牛なべ」の浅草今半のクラス会の全くの再現で、是非来年もと再会を約して散会した楽しさと、なつかしさと、それから壁一重へだてて何かわびしい余韻をふくめた妙な集りでしたが、皆は現役退任後も何か仕事を持って、そのため元気で生活していることが分りました。今何をしているか聞き合う者もなく、時間もなくパット集ってパット散って北は山形から南は九州から集まりました。

S2連絡員 小島豊之進

お互に年取りましたので毎年クラス会をやるということで昭和47年には伊奈製陶の白馬山荘を借りて6月23日一泊して、6月24日アルペンルート縦走し解散。昭和48年には写真のように5月20日箕面観光ホテルに一泊、附近の観光を兼ねてたのしく語り2日を共に過し、明年も大阪の近くでクラス会を開くことに話がまとまった。



箕面観光ホテルベランダで

昭和48年5月20日

小 飯 吉 伊 齊
島 田 田 奈 藤
岡 本 小 林

はやいもので、我々昭和36年卒業組も卒業10周年のしかも卒業以来初めてのクラス会を、一昨年の秋に名古屋で開催いたしました。当初の集計では開催も危ぶまれる程、出席予定者は少く心配されましたが、いざ当日になると、夜遅くかけつける者ありで、結局、仕事をどうしてもはずせなかった羽生君を除いて、全員集合となりました。出席者の意気は高く、それに伴い、アルコールの消費量もうなぎ昇り、以前は酒の全然飲まなかった原君も結構飲んでおり、アルコールの合計量は学生時代より多くなる有様でした。翌朝は日曜日なのに仕事に戻る者もありましたが、大半は犬山城、明治公園などを見物して、5年後の再会を約

して散会いたしました。

クラス会から半年あまり経った去年の5月3日、山のベテラン増田君が白山で遭難し、亡くなりました。同君遭難の前後の日には、軽装の登山者各々百数十人が同じルートを何事もなく踏破しているのに、増田君と、やはり長い登山経歴を持つ、大阪の方のお二人が重装備であったにもかかわらず、突然の氷雨に抗しきれなかったとのこと。これで我々のクラス会は卒業10年余りにして、既に、二人の友人を失いました。同君の冥福を祈るとともに、このような悲劇を繰り返さないため、山へ登られる方々は、なお一層の注意をなさいますようお願い申し上げます。

窯業同窓会規約

1. 本会は窯業同窓会と称する。
2. 本会は会員相互の親睦を図り窯業界の向上発展を期するを以て目的とする。
3. 本会は事務所を東京都目黒区大岡山 東京工業大学内に置く。
4. 本会は第2条の目的を達成するために左の事業を行なう。
 1. 窯業技術懇談会
 2. 見学会
 3. 名簿の発行
 4. その他幹事会において必要と認めた事業
5. 本会々員は東京工業大学窯業関係者を以て組織する。
6. 本会の経費は、会員その他よりの事業寄付金、その他の収入をもって支弁する。会計年度は毎年四月に始まり翌年三月に終る。
7. 本会は毎年度始めに総会を開き左の事を行なう。
 1. 会務の報告
 2. 役員の変更
 3. 規約の改正
 4. その他
8. 本会に左の役員をおき任期は二ケ年とする。但し再選は差支えない。
 1. 会長 1名
 2. 副会長 5名
 3. 幹事 若干名
 4. 常任幹事 5名
9. 会長、副会長および幹事は総会で選出する。常任幹事は幹事の互選とする。
10. 会長は本会を総理し、副会長は会長事故ある時、代行する。常任幹事は会務（庶務、会計）を処理する。幹事は本会の重要事項を審議し、常時地方各職場並びにクラス等の状況、移動および本会に対する意見等を通報するものとする。
11. 本会は相談役をおくことができる。相談役は役員会において推薦し、総会において承認をうる。
12. 本会に支部を置くことができる。支部は本部と連絡を密にし、本会の発展に協力する。（昭和46年4月27日総会において一部改正したもの）

大岡山通信

第 9 回 Dr. G. Wagener 記念公開学術講演会

昭和 46 年 11 月 19 日 (金), 午後 2 時から約 2 時間, 東京工業大学第一会議室において上記講演会が開催された。

今回は, 東京大学工学部山口悟郎教授に「固相反応の機構」と題する講演をお願いした。

同教授は固相反応を明らかにするためには, 拡散の機構と結晶生成の機構とを解析するとともに, 拡散量と結晶生成量とを数的に結びつけなければならないという考えを基に長い年月をかけて固相反応を研究されておられ, その成果を本講演で解説紹介された。その興味深い講演に来会者一同深い感銘をうけ, 来会者の中には閉会後も講師控室で討論を続ける方もおられた。(宇田川記)

第 10 回 Dr. G. Wagener 記念公開学術講演会

昭和 47 年度は 11 月 2 日 (木) 午後 2 時から本館第 1 会議室で開催された。今年は 10 回目なので, 本学卒業生の京都大学化学研究所田代仁教授に講師をお願いした。

演題は「ガラスの分相と結晶化およびその応用」で, 田代教授の長年にわたる研究成果を, 平易に時間にわたって説明され, 約 100 名の参会者に多大の感銘を与えた。(宗宮記)

学内情報

同窓会誌と名簿を 11 月半ばに皆様にお渡しするよう準備を進めておりますが, 締切の 8 月末現在まだ学生が休みのせいもあり幸い大岡山はこのところずっと静かです。しかし研究所の長津田移転の準備のための会合など結構あり慌しく過ごしています。無機材料関係の教官のうち工材研の田賀井秀夫・清浦雷作両教授が昭和 47 年 3 月, 続いて学科の山田久夫・川久保正一郎両教授が昭和

48 年 3 月停年退官され淋しくなりました。しかし先生方にはお元気に過しておられるとのことと慶ばしいことと存じます。また長年勤められた大矢真吾氏は昭和 48 年 3 月停年退職されました。

学科の方はこのところ学部 2 年生および特に 3 年生のための実験の準備と実験の指導がかなり大きな負担となっていたところ, 大矢氏の後任として上西義介氏が工材研より移られ幸い陣容が強化されました。なお工材研については後にやや詳しく紹介されます。

キャンパスの建物については前号で境野教授の紹介された新中棟, 情報処理センターおよび図書館はすでに完成しており特に図書館はなかなか良く出来ており暖冷房完備, カーペットが敷きつめられ, ソファには学生君が横になりスヤスヤという場面も見られ, 私共の学生時代とは今昔の感があります。

今年からはいよいよ長津田の建設が始まり, 研究所の建物から先ず建てられるわけですが, 卒業生各位のご援助による創立 80 周年記念募金の大部分を投入し長津田に総合研究館も建設計画が進められています。この建物は大学院の建物の予算がつく迄は当分の目的に有効に役立てることが予定されています。なおこの建物は 2 階建て長さ 200m あり, 谷をまたぎ橋のようにかかる, 清家清教授苦心の設計となっています。

次に学部・大学院の組織, 学生定員など, 前号に 2 年前の状況が述べられており, 今年度も大差はないが, 徐々に学部定員を減じ大学院定員をふやそうとしています。

学部では金属工学の定員が増大した一方合成化学科と電気化学科は化学工学科に併合され全体として定員を減少した点が変わった点と云えましょう。

特に大学院の専攻として昭和 47 年度から物理情報工学, 48 年度から電子化学, 精密機械システ

無機材料工学科					
講座名	教授	助教授	助手	技官	事務官
窯業学第一(珪酸塩物理科学)		加藤	大田(京)・水谷		
窯業学第二(焼成)	素木	宇田川	大津賀・井川		島田
窯業学第三(熔融)	境野		山根・牧島		
地質鉱物学		小坂	浦部・大平	(平林)・湊	
材料加工学	近藤		後藤・大門	大沢	
工場			林	上西・中	
共通施設			北沢		

原子炉工学研究所 (但し、間係部門のみ)

部門名	教授	助教授	助手	技官
原子炉設計理論	鈴木		井関	長谷



なお現在の学長は前に工材研の所長をされたことのある建築学科の加藤六美教授ですが今年 10 月 23 日で 4 年間の任期満了となるので、9 月早々選挙が始まり、前工学部長の川上正光氏が 10 月 24 日より学長に就任されることになりました。なお本名簿発行に当り会長以下役員の方々のご努力に負うところ多く、また雑用と名簿の整理は特に当研究室の後藤助手と田口恵子さんの努力にまつところが大きくここに厚くお礼申し上げます。末筆ながら同窓生各位の今後益々の御発展を念願申し上げます。(近藤連一記)

ムおよび社会開発工学が設置されました。更に今後長津田移転にともない大岡山と独立の新しい専攻もたてられることとなります。

幸いに無機材料は社会的に最近材料の重要性が認められ始め、また公害、エネルギーに関する問題も少ないので学生の関心は高く、質の良い学生のふえる傾向にあるのは慶ばしいことです。

就職は伝統的な大会社のほかに電子材料、建設材料、更に高分子材料関係からの求人もふえており、今年度は求人 60 社に対し就職は学部 7 名、大学院 7 名となっており、その就職先は名簿の通りです。

工業材料研究所

工業材料研究所で、この 2 年間の大きな変化としては、元所長の田賀井秀夫先生と清浦雷作先生が退官になったことです。また所長も佐藤正雄先生から斎藤進六先生にかわり、新しく丸茂先生、古村先生が助教授として就任され、助手、技官の方にも交代がありました。現在の陣容は次表の通りです。建物などにはほとんど変化がありませんが、南棟に 11 単位の研究室が確保できました。また宗宮先生担当の水熱合成設備の 3 年継続予算が本年度で終り、計約 1 億円、わが国最高の圧力 1 万気圧の高温高压装置などを含めた装置が整備

学科の収容人数

学部	類別	学 科	類別受入人数	
理 学 部 159	第 1 類	数 学	20	
		物 理 学	25	
		化 学	40	159
		応用物理学	34	
		情報科学	40	
工 学 部 620	第 2 類	金 属 工 学	34	
		有機材料工学	20	65
		M a	11	
		無機材料工学		(20)
	第 3 類	C	9	
		化学工学	75	
		高分子工学	34	127
		C	9	
	第 4 類	経営工学		(34)
		M	25	
		機械工学	60	
		生産機械工学	34	170
	第 5 類	機械物理学	34	
		M	17	
		制御工学		(34)
		E	17	
	第 6 類	電気工学	38	123
		電子工学	34	
		電子物理学	34	
	第 6 類	土木工学	34	
建築学		35	113	
社会工学		34		
			757	

大学院の専攻と定員

専 攻	修士課程 入学定員	博士課程 入学定員
数 学	12	6
物 理 学	14	7
化 学	19	11
応用物理学	18	6
金 属 工 学	20	7
繊維工学	15	5
無機材料工学	17	6
化学工学	30	18
合成化学	18	6
高分子工学	18	6
電気化学	12	4
機 械 工 学	32	16
生産機械工学	18	7
機械物理学	18	6
制 御 工 学	18	6
経 営 工 学	18	6
電 気 工 学	24	11
電 子 工 学	19	7
電子物理学	18	6
土 木 工 学	15	6
建 築 学	20	9
社 会 工 学	15	6
原子核工学	8	8
物理情報工学	22	—
電子化学 (昭和48年度設置)	36	—
精密機械システム (昭和48年度設置)	15	—
社会開発工学 (昭和48年度設置)	27	—
計	316	176

工業材料研究所部門別研究系職員表

48. 9. 1 現在

部門名	区分	教 授	助 教 授	助 手	技 術 職 員
基礎計測		龍谷光三	古村福次郎	篠原道正	高見沢 実雄 岡野 一
固体物理		岩井津一	丸茂文幸	森川日出貴 磯部光正	
無機焼成材料		浜野健也	木村脩七	安田栄一 中川善兵衛	
無機熔融材料		佐多敏之	中村哲朗	吉村昌弘 笹本 忠一	太田達雄
化学や金			星野芳夫	畑野東泰 宇都宮 一造	秋本清匡
超高温材料		齋藤進六	宗宮重行	平野真一	吉永善子
合成無機材料			今井久雄	黒沼春雄 伊藤義孝	
複合材料		後藤一雄	小林迪夫	田中享二	鈴木よし 唯野正三 石井 元
工場				小磯晴通	
共通				多田彦二	
所長室					鈴木美代子

されつつあります。工材研としてもう一つの大きな問題は長津田計画の進展です。

すようお願いいたします。

終りに、原稿執筆、編集その他についてご協力頂いた方々にお礼を申し上げます。（後藤誠史）

長津田計画と新大学院専攻

過密になった大岡山を離れて、田園都市線の沿線に約5万坪の新キャンパスをつくるという長津田計画については、すでに前号で簡単に説明されていますが、「起伏の多い変化に富んだ緑地」が、いつの間にか平らに整地され、今年から、いよいよ工材研と精研、印写工学研究施設および総合研究館の実施設計、着工となります。引きつづき資源研、天然物化学研究施設、大学院などが建つ予定になっています。計画は長津田地区利用委員会、長津田地区建設推進本部が中心となり、全学的な協力のもとで進められていますが、問題も多いようです。田園都市線もすでに長津田キャンパスの直ぐ前のすずかけ台まで開通しており、東名高速道路と246号線とにはさまれた交通の便のよいキャンパスでもあるので、できるだけ理想的な研究センターとなるよう希望したいものです。

長津田キャンパスには新しい構想をもった大学院も設置されます。将来は総合理工学研究科として独立した研究科となる計画ですが、現在は全学一本の理工学研究科として、すでに昭和47年度に物理情報工学専攻、48年度に電子化学専攻、社会開発工学専攻、精密機械システム専攻が設置され、引つづき来年度には、工業材料研究所と金属工学科、物理学科の一部教官で担当する材料科学専攻など数専攻の設置が計画されています。現在の計画では長津田キャンパスに11前後の専攻が設置され、工大の大学院生の半分を大岡山、半分を長津田で教育することになります。

あとがき

名簿づくりをして、同窓の皆様の異動の多いのにびっくりしました。不備な点が多々あると思いますがご容赦下さい。

なお異動の際は、お手数ながらご一報下さいま